

韓国の中学生が石炭・歴史博物館などを訪問

未来に向かって歴史を知り、交流を図る

7月21日、韓国順天東山女子中学校1・2年生16人とその保護者や教員5人が石炭記念公園を訪れ、石炭・歴史博物館で開催していた「ユネスコ世界記憶遺産登録原画企画展」で展示された山本作兵衛翁の炭坑記録画などを観覧しました。

同校が行っている「日本体験学習」という授業の一環で本市を訪れた中学生たちは、安蘇龍生石炭・歴史博物館長の説明を受けながら、博物館内や二本煙突、竪坑槽、韓国人徴用犠牲者慰霊碑などを見学しました。

博物館内で、作兵衛翁の炭坑記録画を熱心に観覧していた中学生は「炭坑記録画は珍しく感じた。とてもわかりやすく解説してもらったのでよかった」と話しました。



▲炭坑記録画を観覧する順天東山女子中学校の生徒たち



▲朝日の中ラジオ体操を行い寝覚めもばっちり

夏休みの風物詩

ラジオ体操でつながる地域の輪

小・中学校の夏休み期間中、市内各所でラジオ体操が行われ、中でも後藤寺西団地地区では3世代交流のラジオ体操が行われました。

同地区のこの取り組みは、地域の健全育成と活性化を目指すボランティア団体「西団地地区有志会」を中心に、さまざまな世代が一緒にラジオ体操を行うことで、地域の絆を深めてもらおうと初めて実施。早朝、集会所横広場に集まった5歳から81歳までの地域住民は心地よい汗を流していました。

最年少参加者の御厨公騎くん（5歳）は「ラジオ体操に参加するとたくさんの人と話すことができるのでうれしいです。これからも続けます」と笑顔で話しました。

料理から始まる男女共同参画の一步

ゆめっせ親子料理教室で楽しく調理

7月26日、田川市民会館で「ゆめっせ親子料理教室」が催され、小学1～4年生など約30人が参加しました。

男女問わず料理に興味を持ってもらい、積極的に家事に参加するきっかけにしてほしいと行われたこの料理教室。参加した子どもたちは、保護者などが見守る中、包丁で野菜を切ったり、フライパンで肉を炒めたりして、この日のメニューであるキムタクご飯（キムチや漬物などのまぜご飯）やキャベツのおかかあえなどを完成させていきました。

河野光姫さん（伊田小学校3年）は「ネギを刻むのがむずかしかった。自分でつくったご飯は一味違っておいしいです」とできあがった料理を満足そうに食べていました。



▲ちくわの磯辺揚げにも挑戦。揚げ物だって上手にできるよ！